



©東京ハイジ／二宮町

おたがいさま推進協議会について (生活支援体制整備事業)



©東京ハイジ／二宮町

二宮町高齢介護課 高齢福祉班

● にのみや？どんなところ～？？



- 面積：9.08km²
- 人口：28,431人
- 65歳以上：9,857人
- 75歳以上：5,428人
- 高齢化率：34.6%
- 介護保険認定者数：1,600人
- 介護保険料：月額 4,700円
(全国平均：月額 6,014円)
- 気温：15.6℃(平成29年中)

【二宮町のキャッチフレーズ】

きみのふるさとになりたい

● 介護保険改正により

二宮町では平成29年3月より「介護予防・日常生活支援総合事業」（総合事業）が始まる。

少子高齢化が進み、2025年には、団塊の世代が後期高齢者（75歳以上）に入り、このままでは介護される人が増え介護する人が足りなくなることが予想される。

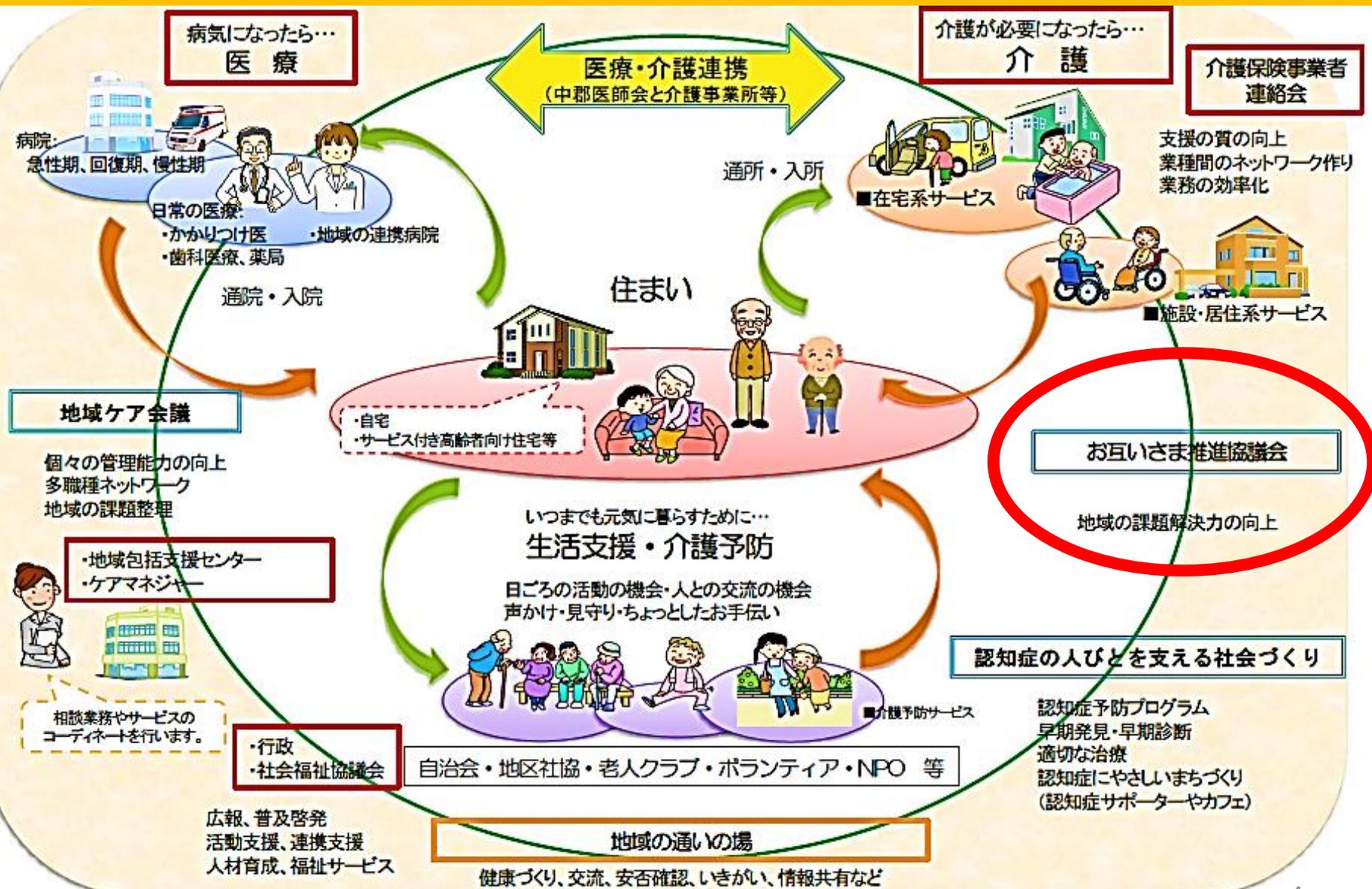
今から介護予防・生活支援に取り組むことが大切。



二宮町の地域包括ケアシステムの深化・推進

令和3年度～ 二宮町高齢者保健福祉計画及び第8期介護保険事業計画より
地域共生社会を目指した地域包括ケアシステム

二宮町の地域包括ケアシステム



● 二宮町の協議体（お互いさま推進協議会と地域の協議体）とは

いろいろな人が集まって、将来の自分や家族、友人、知人、地域の人のために何ができるのかを一緒に考え、お互いさまの気持ちをもちながら支え合うことができるよう、話し合う仕組みが地域の協議体です。



● 二宮町のお互いさま推進協議会の役割(1層)

町全体の支え合い活動の推進のため、地域の協議体と連動しつつ、以下の内容について協議する

- (1) 地域の困りごと及び支援の情報の「見える化」について
- (2) 地域に「お互いさま」の意識を広めることについて
- (3) 支え合い活動の担い手育成に関する取り組みについて
- (4) 担い手同士の情報共有、連携体制について
- (5) 支援が必要な人と担い手との結びつけについて

● 二宮町の地域の協議体（2層）

いちぶく
（一色小学校区）

クローバーの笑・和・輪
（二宮小学校区）

お互いさま推進協議会

たんぽぽささえたい
（山西小学校区 梅沢含む）

① お互いさま推進協議会とは

第1層協議体

- 二宮町全体が対象
- 二宮町の生活支援について話し合う
- 活動報告など情報共有をする場

② 小学校区単位の協議体とは

第2層協議体

- 各小学校区ごとが対象
- 仲間づくりの場
- 活動報告や地域の困りごとなど情報共有をする場
- 一緒にできることを探求する

一緒に地域を考える仲間は、



まずは、

ずっと住み続けられる地域には、どんな活動が必要か？
わいわいガヤガヤとみんなと一緒に考える。

集まる

つながる

話し合う

ささえあい たすけあう

そんな地域づくりの調整をするのが、

● 生活支援コーディネーター

資源の把握・創出・開発

ネットワークづくり

支援とニーズのマッチング



住み慣れた地域で自分らしい生活をするように、地域づくり(介護予防・生活支援・社会参加など)の体制の充実を図る調整役です。

役割:

- * 地域に今あるサービスと不足しているサービスの把握と創出、地域活動の担い手養成等の資源開発を行います。
- * 関係者間の情報共有・提供・意見交換等、連携のためのネットワーク作りのお手伝いをします。
- * 地域の支援ニーズと取り組みの橋渡しを行います。



菜の花ウォッチングのガイド
 高齢者向けの支援
 支えあい
 街頭美化活動
 交流会
 小学生との交流
 意見交換 (各地域の課題等)
 ↓
 と本ぞの地おえで実践

各地域で何があるの
 ・店がない(中里以
 とくし丸(和歌山)
 様々な情報と車
 利用者が増え販
 店員が足りない
 のににカエ...
 集まる場所 (売見
 ホーローキング
 の
 こいしニアミツで
 ↳場所の提供



【わいわいガヤガヤ話し合い中】



● 二宮町の協議体の動き

- 平成28年5月 協議体研究会
(民生委員・NPO・老人ホーム・デイサービス・リハビリ職・包括・社協・行政)
平行して一色小学校区再生協議会福祉部会
- 平成28年8月 勉強会 さわやか福祉財団(一色小学校区と共催)
- 平成29年1月 勉強会 さわやか福祉財団(住民組織・商業者・介護事業所等)
- 平成29年2月 地域の協議体の立ち上げに向けたワークショップ 大磯包括
(山西地区住民組織・商業者・介護事業所等)
- 平成29年4月 二宮町生活支援体制整備事業(介護保険法地域支援事業) スタート
お互いさま推進協議会(第1層協議体)と一色小学校区福祉協議会(第2層協議体)立ち上げ
- 平成30年3月 生活支援サービス担い手養成研修 よこはま地域福祉研究センター(住民向け)
- 平成30年7月 勉強会 地域支え合いセミナー 医療経済研究・社会保険福祉協会(住民・介護事業所等)
- 平成30年10月 山西小学校区協議体(第2層協議体) 動き出し
- 平成30年12月 二宮小学校区協議体(第2層協議体) 動き出し
- 平成30年12月 山西小学校区協議体の名称が決定「たんぽぽささえたい」
- 平成31年4月 一色小学校区が再生協議会から独立し名称が決定「いちふく」
- 令和元年5月 二宮小学校区協議体の名称が決定「クローバーの笑・和・輪」
- 令和元年12月 神奈川県社協 アドバイザー派遣事業の活用 協議体のサポート

● ポイントまとめ

集まる

つながる

話し合う

仲間づくりの輪から生まれてくる

地域の活動

これを全力応援！！

● 話し合いから得たポイント

- 多世代への協力依頼（助け合い活動や認知症普及）
- 担い手不足の問題
- 情報収集（ニーズ調査）
- 生活支援について（情報収集と可視化）
- 移動困難者の支援について
- いきいきと暮らし続ける地域づくりについて

● 生活支援コーディネーターだより発行

活動内容をみなさんに知ってもらうために

第6号

わがまち・にのみや
～生活支援コーディネーターだより～

発行/高齢者の相談窓口 二宮町地域包括支援センターなのはな
住所/〒259-0196 二宮町二宮961(二宮町役場庁舎1階) ☎0463-71-7085 R2.7発行



富士見が丘・松根地区を実際に歩いてまわり、ベンチだけでなく、休憩できそうなポイントや無人販売所・電話ボックス・自動販売機などもチェックし写真を撮り、地図に落とし込みました。



コミュニティバスの路線図とバス停を追加!!

ベンチ調査しました!

お互いさま推進協議会
(二宮町全体を考える会)

令和元年10月31日今年度3回目を開催しました。前回課題になったベンチについて、調査報告しました。「いちふく」でも同様の結果について報告しました。

令和2年1月30日4回目を開催し、ベンチについては、今後調査内容を分析・検討することとなりました。



3小学校区合同の学習会と意見交換会開催しました。

神奈川県社会福祉協議会から生活支援のアドバイザーとして東洋大学山本美香先生に来ていただきました。山本先生には二宮町の状況や現状を伝えた上で、令和元年12月13日「二宮町のこれから。“考え・動く”のために」をテーマに学習会をしていただきました。地域社会にある様々な問題も地域とつながり、助け合いや支え合いで「地域力」を強くすることで最後まで住み慣れた地域で暮らし続けることにつながる。そのために今できる「一人ひとりの役割」が重要であり、改めて「つながる」ことの重要性を教えていただきました。また、各小学校区の方から現在の会の状況について話していただき、意見交換をしました。また、山本先生には地域の協議体にも参加いただき、客観的に見た視点でのアドバイスをいただきました。



話し合いの中から生まれた



【 内容 】

- 相談先
- 通いの場（地域の居場所）
- 家事
- 宅配・弁当
- 安否確認
- 緊急対応
- 認知症ケアパスとガイドブック

● 生活支援サービスファイル

町・社協のHP
にも掲載中

● 生活支援サービスファイル簡易版

生活支援サービスファイル簡易版

二宮町内で提供されているさまざまな生活支援に役立つ民間サービス等の情報をまとめています。みなさんの困りごとの助けになればと思います。また、完成品ではないので、随時内容の追加・修正し、地域の便利帳として充実させていきたいと考えています。

困った時の相談先

*高齢者の総合相談窓口
二宮町地域包括支援センターなのはな 71-7085

*高齢者にかかる相談全般「ことわらない相談窓口」
二宮町役場高齢介護課高齢福祉班 75-9542

*地域の相談役
民生児童委員（二宮町役場事務局） 75-9289

*事件・事故・犯罪など
大磯警察署 72-0110

*商品やサービスなどの消費生活全般に関する苦情・相談
消費生活センター 21-7530

*法的トラブル解決のための総合案内所
法テラス 050-3383-5370

家事支援（病気やケガなどで困った時）

二宮町社会福祉協議会ホームヘルプステーション
介護保険事業所の自主事業 73-2881

訪問介護ハレルヤ
介護保険事業所の自主事業 26-9311

湘南ホームフレンド二宮介護サービス
介護保険事業所の自主事業 72-8877

湘南二宮ヘルプステーションなのはな
介護保険事業所の自主事業 70-3034

たすけあいワーカーズ大空
介護保険事業所の自主事業 72-4054

オリーブヘルプステーション
介護保険事業所の自主事業 75-8173

シルバー人材センター
家事支援・ゴミ出し・庭の草取りなど 71-0681

安否確認・緊急対応

シルバー緊急通報システム（二宮町社会福祉協議会）
定期的な安否確認や緊急時の通報サービス 73-0294

おたすけネット安心電話（二宮町社会福祉協議会）
希望者に定期的に電話で安否確認をします 73-0294

● 気づくことの大切さを見える化

高齢者見守りチェックシート

「おかしいな？」「どうしたかな？」
といった気づき大切です

このような様子でしたら、地域包括支援センターに情報提供して下さい
★緊急の場合は大磯警察署（72-0110）に連絡して下さい



- ①身なりの乱れ（服装が汚い、夏も冬も同じ服を着ている、髪がぼさぼさ）
- ②今まで挨拶をしていた人が挨拶をしなかったり、表情が硬い
- ③買い物の際、小銭があるのに、毎回紙幣を出す
- ④ゴミの分別やゴミ出しができない
- ⑤話がかみ合わなくなったり、同じ話を何度もする
- ⑥最近痩せてきた、具合が悪そう
- ⑦家事や買い物がつらくなると、本人が話す
- ⑧ここ最近、姿を見かけなくなった
- ⑨家から怒鳴り声がある
- ⑩体に不自然なあざがある
- ⑪寒い日や暑い日に長時間家の外にいる
- ⑫新聞や郵便がポストにたまっている
- ⑬同じ洗濯物が何日も干してある
- ⑭家の中から異臭がする
- ⑮最近、見知らぬ人が家に入出入りしている

【①～⑤は認知症の可能性】 【⑥～⑧は体調不良の可能性】 【⑨～⑪は虐待の可能性】

高齢者の相談窓口

【⑫～⑭は家の中で倒れている可能性】 【⑮は消費者被害の可能性】

二宮町地域包括支援センターなのはな
二宮町二宮961（二宮町役場1階）

☎0463-71-7085

● 気づくことの大切さを伝える

広報このみや(2019.7)

～誰にも やさしい まちづくり～

共に生きる

今の時代を表す言葉の一つに「少子高齢化」があります。日本の総人口は減少する一方、65歳以上の高齢者人口は増加し、特に後期高齢者(75歳以上)が急増することが予測されていることは、二宮町も例外ではありません。町では、高齢者が住み慣れた自宅や地域で、自立した生活が続けられるよう支援するため、「**自立で安心、地域でいきいきとふれあうまちづくり**」を基本理念とした高齢者保健福祉計画を策定し、さまざまな事業を推進しています。

現状を知る

65歳以上の人口が全人口に占める割合を高齢化率と言い、二宮町では、町民の3人に1人が65歳以上の方となっています。この状況は、神奈川県や全国の平均を上回る水準になっている一方、介護を必要とする方の割合は、県や全国よりも低い値で推移していることから、「**元気な高齢者が多い町**」として捉えることができます。

二宮町の人口に占める高齢者の割合(単位:%)

65歳以上	34.0%	75歳以上 (後期高齢者)	18.3%
-------	-------	------------------	-------

※日本国勢調査結果を基に
※地域包括支援センター

中にも、例にも、元気な高齢者が多い町! 「みんなでやると楽しい」という気持ちも、年代問わず変わらないものですね。

認知症は5人に1人?

認知症は、年齢を重ねると誰にでも起こりうるもので、脳の細胞がさまざまな原因で減少、または働きが悪くなることなどによって、記憶力や判断力が低下した状態を示す症状であり、病名ではありません。その認知症を引き起こす原因として、代表的なのがアルツハイマー病で、認知症患者全体の6割以上を占めていると言われています。今では、一般的な病の一つとなっていて、統計では、出生の世代が75歳を迎える2025年には、65歳以上の5人に1人が認知症になっていると言われています。

身近⇒異変を察知できる

認知症は、家族・友人・近所の方など、近い存在の方であるほど異変を察知しやすく、初期対応につなげやすいものです。

2025年の認知症罹患率の推計

【人口3人に1人】65歳以上
【5人以上に1人】認知症
【5人以上に1人】老年性認知症

最新に計算すると、2025年には、全町民の15人に1人が認知症の方ということもありえるね。

ご一緒に、平均年齢約51歳で発症する、老年性認知症(65歳未満)もあるんだよ。

【いつもと違う】
↓
症状の可能性あり

- 話がかみ合わなくなった
- 身なりが乱れるようになった
- あいさつをしなくなった
- 同じ話を何度もするようになった
- ごみの分別や、ごみ出しができなくなった など

「おかしいな?」「どうしたかな?」
という**気づき**が大切です!

地域包括支援センター「なのはな」まで、お気軽にご相談ください。

認知症を含め、介護はある日突然やってくる 경우가多く、また、決まった答えがありません。私たちは、医療機関や介護関係者と連携しながら、ご本人やご家族にとって最善を導き出すようにする**一番身近な相談窓口**と覚えていただき、小さなことでも一人で悩まず、ご相談ください。

認知症の方、それを支えるご家族の方の心に寄り添いながら、皆さんがこの町で自分らしく暮らし続けていけるようにするために「**なのはな**」があります。誰にとっても不安なく暮らしやすい町にするために、今日も皆さんと一緒に「暮らし」について考えていきたいです。

備え…本人や家族

- 認知症あんしんガイドブックで、理解を深める。
⇒ガイドは、町ホームページまたは地域包括支援センター「なのはな」で入手してください。
- 食生活や健康づくりなど、生活習慣を規則正しくする。
- 認知症になった時の希望や不安などについて、家族と話し合っておく。
- 地域の通いの場やサークル活動などに参加して、地域の住民とつながる。 など

※認知症を完全に防ぐことは難しいですが、さまざまな取り組みが予防につながると言われています。

気づき…周囲の方

- 周りの方の異変に気付く。
・本人へ声掛けをするなど、寄り添った関係性をつくる。
・地域包括支援センター「なのはな」へ相談・連絡する。 など

応援者になりませんか?

認知症サポーター養成講座
認知症の方とその家族にとってやさしい地域をつくるため、出前講座を実施して、認知症応援者を増やす取り組みをしています。

対象 10名以上の受講者で申し込み
費用 無料 開催日 応相談
※詳細は「なのはな」までお電話を!

受講者には
オレンジリボン
お礼の品です

認知症について語り合いませんか?

にのになカフェ (入会費は自由!)

認知症の方とその家族、専門職や地域のサポーターなどが集まり、お茶を飲みながら相談や情報共有ができる集いの場です。

申込 不要 費用 無料
開催日 毎月第2火曜日、最後の木曜日
※時間や場所などは町掲示版でご確認ください

地域包括支援センター「なのはな」(仮場内) ☎71-7085

● ケアラー支援として

にのにん通信 2020年冬 二宮町地域包括支援センターなのはな

「にのにん」とは

「にのにん」の「にの」は二宮町の「にの」、
 「にのにん」の「にん」は 認知症の「にん」「人間」の「にん」、
 任せ合うの「にん」、認め合うの「にん」、
 認知症であってもなくても、本人とその周りの方たちが安心して暮らせる町にしたい
 そんな思いからつけられた言葉です

にのにんカフェ

認知症に限らず、介護や暮らし、今後の生活のことなど気軽にしゃべりやすい会が地域や事業所などで開催されています。入退場自由ですので、ご都合に合わせてご参加ください。地域包括支援センター職員や町内介護事業所のスタッフも参加しています。詳細はお問い合わせください。

☆コミュニティダイニング（百合が丘商店街）
 1月27日・3月30日（月）

11時～13時

☆オベラガーデン湖南二宮（二宮 116-1）
 1月14日・3月10日（火）

14時～16時

☆ラディアン 展示ギャラリー
 2月7日（金） 10時～12時

介護者のつどい

認知症に限らず、高齢者を介護しているご家族や介護者の方がつどい、普段の介護の悩みを話したり、情報共有する会です。実際に介護されている方や、介護経験のある方を対象としています。地域包括支援センター職員がおりますので、ご本人の参加も可能です。どうぞ一緒にご参加ください。

日時 3月9日（月） 14時～16時

場所 二宮町民センター

申込 二宮町地域包括支援センター
 電話 71-7085

認知症サポーター養成講座

認知症を正しく理解し、認知症の人やその家族を温かく見守っていただくためにサポーター養成講座を開催しています。講座は30分から120分程度、概ね10名以上のグループでお申し込みできます。無料で行いますので、お気軽にご相談ください。

認知症初期集中支援チーム

認知症に関する「心配」「困った」をサポートするチームです。医療や介護サービスを受けていない、または中断しているけれど認知症について心配のある方はご相談ください。

お問い合わせ 二宮町地域包括支援センターなのはな TEL 71-7085

認知症あんしんガイドブック

認知症は、決して他人事ではなく、誰にでも起こりうる身近な病気です。2025年には65歳以上の5人に1人が認知症になるといわれています。認知症について正しい理解と適切な対応・支援をすることで、住み慣れた地域でその人らしい生活を続けることができます。

認知症あんしんガイドブックは町民の皆さんに認知症の概要について理解していただくとともに、ご自身やご家族が認知症になったときの不安を少しでも軽減していただけるよう、どのようなサービスや支援を利用することができるのかをまとめています。

認知症の方やその家族だけでなく、町民の皆様が認知症の理解を深め、認知症になっても安心して穏やかに暮らせるようこのガイドブックをご活用ください。

目次

1. 認知症とは	P1-4
○認知症の原因	P1
○認知症の症状	P2
○認知症の方やその家族と関わる時に知っておきたいこと	P3
○認知症かな？と思ったら	P4
・早期発見のためのチェックリスト	P4
2. 認知症の相談窓口	P5-6
○二宮町地域包括支援センター「なのはな」	P5
○認知症初期集中支援チーム	P5
○かかりつけ医	P5
○かかりつけ薬局	P5
○県の認知症疾患医療センター	P6
○その他相談窓口	P6
3. 認知症の方やその家族が利用できるサービス・支援	P7-13
○主な介護保険サービス	P7
○在宅で利用できるサービス	P9
○家族への支援	P10
○権利を守る・財産の保護	P11
○ご家族の行方がわからなくなったとき	P12
○運転適性相談	P13
4. 認知症の発症を遅らせるために	P14-17
○認知症の予防につながる生活習慣	P14
○でかけましょう！介護予防・認知症予防	P15
・地域の通いの場	P15
・未病センターにのみや健康づくりステーション	P16
・高齢者の活躍の場	P17
5. 暮らしやすい町づくりのために	P18-19
○認知症への備え	P18
○認知症についての理解を広める取り組み	P19
・認知症サポーター養成講座	P19



認知症あんしんガイドブック

● 本人の声に耳を傾ける



●助け合い活動って？二宮ではどうだろう？

内容	形態	ご近所	地縁組織	居場所	地域通貨	有償ボランティア	非営利団体	営利団体の社会貢献活動
	見守り							
	交流							
	ちょボラ							
	家事援助							
食事	会食							
	配食							
	移動							

- 本図において○を付した活動が、市区町村のほぼ全域において継続的に行われていれば、その市区町村は目指すべき地域像をおおむね実現したと評価できる。このマトリックスを参考にして、担当する地域の実情を把握し、足りない活動の創出などに役立ててほしい
- なお、図に示した○、△、×は平均的な形態について評価したもので、例えば居場所から家事援助や配食、移動の活動が生まれる例も少なくない

住民主体で取り組める主な活動

- 見守り



- 声かけ



- 居場所づくり
(コミュニティ
カフェ等)



○地域にある“ナチュラルな社会資源”

昼間はカラオケ。近所の人の集まる場です。



困った人がいると助けられる人です！



コーヒーで人が集まっている。民生委員さんも来るよ。

昔からのお店で、地域の情報ツウだよ。



皆でラジオ体操。で、その後は、イートインで盛り上がるよ。



行くと誰かがいる。マスターがいつも迎えてくれるんだ。

